

# 原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/10/17号

マーケットエッジ株式会社 小菅努



## 【現状確認】



(出所) Refinitivよりマーケットエッジ作成

## 需要不安を背景に戻り売り優勢

NY原油先物相場は、1バレル=85ドル台中盤まで下落した。週明け直後は需給ひっ迫見通しを織り込み、一時93.64ドルまで上昇し、8月30日以来の高値を更新した。しかし、その後は需要不安の織り込みにシフトし、安値85.20ドルまで急反落した。為替がドル高に振れたこともネガティブ。石油輸出国機構（OPEC）プラスの減産決定を受けて、米国とサウジアラビアの関係が急激に悪化しているが、原油相場に対する影響は限定的だった。

国際通貨基金（IMF）は、2023年の世界経済成長率予想を7月の2.9%から2.7%まで下方修正した。米国や中国を中心に経済の失速傾向が強まることが予想されている。このため、景気減速による需要不安の織り込み動きが優勢になった。国際エネルギー機関（IEA）は、世界石油需要見通しを今年日量6万バレル、来年47万バレル下方修正した。OPECも今年46万バレル、来年36万バレル下方修正している。いずれも景気減速やエネルギー価格高騰の影響が想定されている。

米エネルギー情報局（EIA）の米石油在庫（10月7日時点）は、原油が前週比988万バレル増、ガソリンが202万バレル増、石油精製品が485万バレル減となった。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読み下さい。

## 原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

## 【展望】

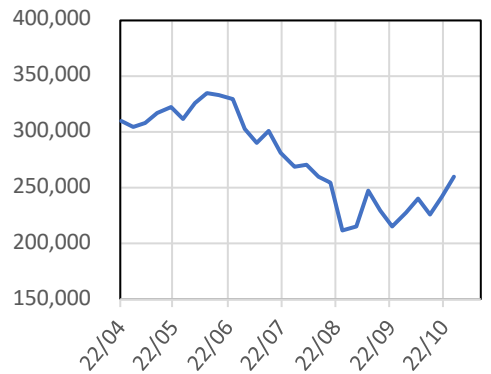
## 需要不安が上値圧迫も、改めて下値固める展開か

需要不安やドル高の上値圧迫は続くが、底固さが再確認されよう。OPECプラスは11月から日量200万バレルの減産に踏み切る。あくまでも生産枠ベースの議論になるため、実際の減産幅は日量100万バレル強に留まるとの見方が強いが、それでも需給バランスに対して強力な引き締め圧力が発生する見通しに変化は生じない。今後は冬の需要期に向かう一方、12月には欧州連合（EU）のロシア産石油禁輸措置も始まることになる。調整売りの消化後は、徐々に地合を引き締める展開になろう。十分に値ごろ感のある価格水準に到達しており、下げ一服となれば90ドル台での取引に回帰する可能性が高まる。

需要サイドのリスクは解消が困難な状況にある。世界経済の減速傾向に変化はみられず、更に中国では新型コロナウイルスの感染拡大を受けて行動規制が強化されるのではないかとの警戒感も強い。米連邦準備制度理事会（FRB）の積極的な利上げ対応が予想されていることは、株安やドル高、更に景気減速リスクを高めることになり、需要サイドの視点では原油相場の上値は圧迫され易い。10月18日に発表される中国経済指標が景気減速懸念を高めるかが焦点になる。

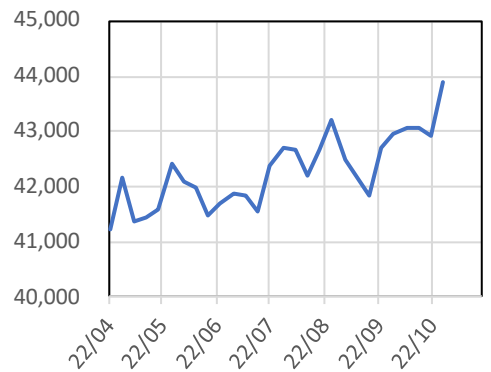
しかし、OPECプラスが11月以降に大規模な減産を開始すれば、需要不安を考慮に入れても需給ひっ迫化が進み易くなる。特に、需要期に向かう石油精製品在庫のタイト感が再評価され始めていることは、原油相場の下値を支えよう。備蓄放出で原油在庫は横這いから漸増傾向にあるが、石油製品在庫のタイト感は解消されづらい。前週は石油精製品在庫の減少が買い材料視されたため、更に在庫の取り崩しが進むかにも注目したい。

(枚) NY原油先物 大口投機筋ネット建玉



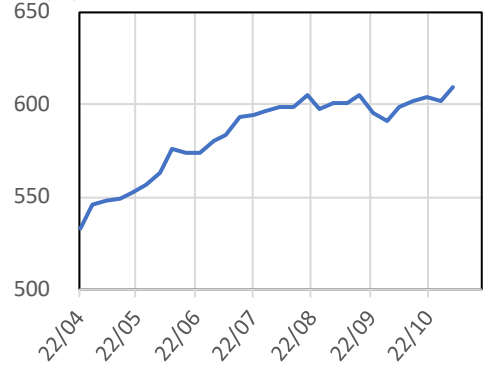
(出所) CFTCよりマーケットエッジ作成

(万バレル) 米原油在庫



(出所) EIAよりマーケットエッジ作成

(基) 米石油リグ稼働数



(出所) Baker Hughesよりマーケットエッジ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

## 【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所がマーケットエッジ株式会社から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、マーケットエッジ株式会社に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 マーケットエッジ株式会社（Marketedge Co., Ltd.）

【所在地】 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-18-1（古川ビル4F）

【URL】 <https://www.marketedge.co.jp/>

【電話】 TEL : 03-6661-9498 【E-mail】 [info@marketedge.co.jp](mailto:info@marketedge.co.jp)

### 小菅努（こすげ・つとむ）プロフィール

1976年千葉県生まれ。筑波大学社会学類卒。商品先物会社の営業本部、ニューヨーク事務所駐在、調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社を設立、代表に就任。金融機関、商社、事業法人、メディア向けのレポート配信、講演、執筆などを行う。

最新情報は  
ツイッターで

